

第3回 県立都市公園のあり方検討会 赤穂海浜公園部会
公園利用者へのヒアリング 議事要旨

- 1 日時 令和5年1月19日（木）13:30～16:30
- 2 場所 赤穂市文化会館赤穂化成ハーモニーホール2階 学習室
- 3 出席者
赤澤部会長、山本委員、岩崎委員、梅本委員、浜野委員、明石委員、齊藤委員
- 4 ヒアリングのテーマ
赤穂海浜公園における自然環境保全・活性化
- 5 意見概要
(1) 清水 隆雄（特定非営利活動法人赤穂里うみカヤックス） 赤穂市
 - ・アマモの保全再生を行っており、海洋科学館と連携して環境学習につなげていきたい。
 - ・湖や水路でアマモを植生し、その成果を見てほしい。
 - ・夏季に親子カヤック体験教室を行っているが、シーカヤック教室も模索しており、スキルが向上すれば海岸線をツーリングすることも考えたい。
 - ・法人での運営には限界があるので、園内の設備、備品の充実、ガイド育成について考えてほしい。
 - ・クライミング、ボルダリング、マウンテンバイクやサイクリングのコースなど、子どもから大人まで楽しめる場があればよい。
 - ・行政、あこうDMOなどの連携により、モンベルヴィレッジかモンベルアウトドアヴィレッジを誘致し、アウトドアの場を利用した地域活性化を目指してほしい。
 - ・アウトドアに特化した団体や店舗が進出すれば、雇用の促進、来訪の増加、定住につながるのではないか。
 - ・ソロキャンプ設営や火気使用に係る制限を再考してほしい。
 - ・潮の門の開錠をお願いする。

◇意見交換

○梅本委員

モンベルヴィレッジは何をしていて、どのような実績を残しているのか。

○清水

高知、奈良で事業を展開しており、アウトドア用品の販売、飲食やボルダリングの施設整備を行うほか、ラフティング、カヌーの体験を提供している。

○赤澤部会長

今後の方向性として、アウトドア施設の整備、規制緩和などの提案があった。

○山本委員

アマモとは何か。

ソロキャンプ設営と火気使用に係る危機管理はどう考えているか。

○清水

アマモは海草で、光合成により酸素を排出し、CO2を吸収する能力があり、カーボンニュートラルに向けた仕組みづくりにも使える。

危機管理については、オートキャンプ場と差別化し、ガイドによって火の扱い方などを学習するようにすればよいのではないか。

○浜野委員

御崎小学校がアマモを育成してきたが、それとは別のものか。

○清水

以前は海っ子倶楽部という団体が行っていたが、そこから引き継いだ。

○赤澤部会長

シーカヤックで海の中を見るなど、アウトドアと自然保護を結びつけるといった可能性はあるか。

○清水

安定したカヤックでなければ外海での観察は難しいが、底が透明のカヤックは保有しているので、それを利用してアマモを見ることも考えたい。

○赤澤部会長

カヤックやシーカヤックは何歳ぐらいからできるのか。

○清水

タンデムで2人乗りのカヤックもあり、保護者と乗るのであれば6歳ぐらいから対応できる。

○赤澤部会長

子どもたちだけで体験できるのは何年生ぐらいか。

○清水

友達同士で乗ることができるのは小学校3年生ぐらいから。

○赤澤部会長

学校単位でも体験できそうである。

○浜野委員

指導者になるためには研修を受けなければならないのか。

○清水

2日間の研修として、座学と実技があるので、一定程度の経験があるほうがよい。

○赤澤部会長

指導者が増えたらいいという意見か。

○清水

そうである。

○赤澤部会長

子どもと一緒にやりたいという方が増えてくるとよい。

○岩崎委員

カヤック体験教室は季節に関係なく行えるのか。

○清水

シーズンは4月から10月ぐらいだが、天候によっては難しいときもある。

(2) 山口 晴康 (特定非営利活動法人赤穂里うみカヤックス) 赤穂市

※清水隆雄が代理発表

- ・親子カヤック体験教室を発展させ、その体験者をシーカヤックにつなげていきたい。
- ・現在使用しているのは、古いタイプのタンデムカヤックや、海には不向きなリバーカヤックなので、スタンドアップパドルボードやシーカヤックに刷新するなど、機材の導入をお願いしたい。

◇意見交換

○岩崎委員

体験教室で使用しているカヤックは海浜公園が所有しているものか。

○清水

そうである。

○岩崎委員

何台か。

○清水

タンデムカヤックが5艇、リバーカヤックが10艇以上ある。

○岩崎委員

リバーカヤックは使用していないのか。

○清水

経験していないと乗りにくいので、リバーカヤックは指導者用として使用している。親子はタンデムに乗る。

○岩崎委員

体験に向いているのがタンデムということか。1人用は難しいのか。

○清水

そうである。安定している。1人用はくるくる回転するので難しい。

○梅本委員

今回のプログラムは高齢者がターゲットではないのか。

○赤澤部会長

提案は、親子体験教室を発展させるというものである。

○梅本委員

高齢者と息子でも親子だが、それは想定していないのか。

○清水

65歳ぐらいまでは対象としたい。

○赤澤部会長

安定したカヤックを導入すれば子どもから大人まで対応できるということか。

○清水

初めての体験でも、我々が乗って安全性を確認したものを使えば、6歳から65歳まで可能である。

○山本委員

スタンドアップパドルボードのヨガ用とツーリング用の違いは何か。

高齢者がスタンドアップパドルボードを使用できる仕組みをどう考えているか。

○清水

ヨガ用は、幅が広くて安定性が高く、アンカーを打って固定した状態で使う。

ツーリング用は、装備品やキャンプグッズなどが乗せられる。

高齢者の体験については、園内の赤湖と白湖であれば可能である。

○浜野委員

子どもがスタンドアップパドルボードで海へ出るのは難しいのではないのか。

○清水

海での体験は、指導員が海や風の状況などを確認して安全な場合のみ行う。

○岩崎委員

体験教室は平日に行わないのか。料金設定はどう考えているか。

○清水

カヤックの体験については、8名のインストラクターがいるが、仕事の関係で週末などに限定される。

ただ、ガイドの指導、施設設備について、公園側とあこうDMOやモンベルなどが連携すれば予算面などもクリアできるのではないのか。

○赤澤部会長

料金については、適切な料金を取ったほうがよいのではないのか。

○清水

教室については、安全指導をしっかりと行うため、正規の料金としたい。

体験については、時間設定を短くするなどして若干抑えた価格にしたい。

○赤澤部会長

何回も来てもらうためにはそれがよい。終わった後は管理事務所のシャワー室を使うのか。それは少し遠くないか

○清水

場所としては遠い。また数も足りない。

○赤澤部会長

ランニング用のシャワーとか簡易なものなど、使えるものがあればよい。

○梅本委員

親子体験教室は完全予約制なのか。

○清水

そうである。

○梅本委員

親子を装って乗るのは認めないのか。

○清水

そうである。保険の関係もあり、事前に親子関係は確認している。

○赤澤部会長

子ども会で来た場合や親戚で来た場合などは、誓約書を取って責任を明らかにすることが基本だと思うが、安全第一という趣旨は理解できる。

ヨガ用の体験については、少人数での実施なのか。

○清水

アンカーで固定するため、3艇から5艇がベスト。

○梅本委員

赤穂市作成の動画では5人ぐらいで行っていた。

(3) 松井 良雄 (CAFÉ GRAND PERE) 赤穂市

- ・イヌバウンド推進について提案する。
- ・ペットを家族の一員と捉え、費やす金銭や時間を惜しまない人が増えており、ペット同伴可能な宿泊施設や飲食店を探して移動している。
- ・当店にも他府県から来店しているが、それはペットの存在が関係している。
- ・海浜公園でも犬と散歩をする人が増加しており、全天候型の有料ドッグランの整備により、広範囲から愛犬家を呼び込むことが可能になる。無料ドッグランあるいは簡易なドッグランでもよい。
- ・犬と一緒に楽しめるカヤックやスタンドアップパドルボードのサービス、ペット向けのプール、アスレチックなどを整備すれば相乗効果が得られる。
- ・周辺の飲食、観光、宿泊関係への効果も考えられる。
- ・県内で飼育されているペットは30万頭弱であり、近隣県と比較して多く、商圏

としても大きい。

- ・赤穂市には、高山のピクニック公園にドッグランがあるが、周辺では、たつの市の道の駅みつとワンふれんず、岡山県の黒井山ぐらいしかなく、赤穂市に低価格でも有料なドッグランがあれば魅力的である。

◇意見交換

○浜野委員

海浜公園で犬と散歩している方々もドッグランを望んでいる。解決すべき課題もあるが、整備できれば良い。

○松井

実現できれば赤穂市内の人に喜んでもらえる。

○赤澤部会長

海外のドッグランは、料金を取ってきちんと施設として経営するものと、利用者が責任を持って運営するものがあるが、提案は、正式に経営するものである。

それができるかどうか不安があるため、日本ではなかなか実現していないが、試行している事例は聞いているか。

○松井

黒井山のドッグパークが現実的な事例で、利用料金は1日500円、駐車料金も500円である。広大なところにフェンスと貸し切りハウスのようなものがある。

基本的な装備として、芝、フェンス、手洗い場、ごみ箱、ベンチがあれば実現できる。

広さが300坪として、フェンス整備費は高くても300万円、芝生整備もそれほど多額ではなく、全体の投資額は何千万円になるものではないが、芝の状態の観察は必要である。

高料金のすごいドッグランではなく、その程度の規模でもよい。

○梅本委員

ランニングコストについて、何頭来たら採算が取れるのか。

○松井

専門家ではないので、分からないし、その辺は考えていない。

ドッグランだけで利益を上げるとすれば、経営側が考えるべき点はあるが、犬を安全かつ自由に遊ばせたいドッグラン利用者が来訪することによって、赤穂市に経済的効果などのメリットがあるのではないか。

○赤澤部会長

ほかのサービスや付加価値などとトータルで考えるという発想は分かる。

犬を遊ばせるところとカフェなどがあれば採算が取れると言う企業もある。

清水さんに伺うが、犬と一緒にカヤックに乗ることはできるのか。

○清水

犬用のライフジャケットもあるので、一緒に乗ることは可能である。

○赤澤部会長

犬のほうが子どもよりも動かないか。

○清水

結構、飛び込む。

○赤澤部会長

海外の公園ではドッグビーチエリアもある。課題はあるが、そういったものも面白いかもしれない。

○松井

キッチンカーを何台か呼び込むと、興味を持つ人が来ることも考えられる。

○赤澤部会長

キッチンカーは独立して営業できるのか。電源は必要にならないのか。

○松井

電源があれば、よりいいが、発電機を持ってくる人が多いので、電源がなくても支障はない。

○赤澤部会長

日にち限定のイベントもあるし、園路も広いので、キッチンカーの活用は考えられる。

(4) 濱田 さくら 赤穂市

○子育て中の方に意見や要望を募ったが、小学校低学年までの保護者と子どもの意見は次のとおり。

- ・ 駐車場について平日は無料にしてほしい。
- ・ 駐車場と遊具のある場所が遠く、移動が大変なので、西側駐車場を拡張するほか、正門近くに低年齢児用の遊具を設置してほしい。
- ・ トランポリン、ふわふわドームは屋根つきにしてほしい。
- ・ 段差がない幼児対象の浅い水遊び場をつくってほしい。
- ・ 新設遊具の近くに手洗い場や屋根つきベンチがあれば休憩しやすい。
- ・ 子どもが自由に遊べ、親は安全に見守れて負担を感じない公園にしてほしいというのは各意見に共通するところである。
- ・ 自転車レーンを設置し、自転車乗り入れを可能にする、ランドトレインの料金を安くする等、どの年齢の方でも安全かつ容易に移動できる仕組みが必要
- ・ サークルやイベントなどの開催について、借用や告知がしやすい仕組みを設けてほしい。

○小学校高学年から高校生までの保護者と子どもの意見は次のとおり。

- ・海浜公園は小学校高学年以上が対象になっていないと感じる。
- ・マリンアクティビティや校外学習について、海洋スポーツ、生き物観察の体験学習を行える環境を整備してほしい。
- ・市内外の自然学校の受け入れのため、団体向けにハードとソフトを整備してほしい。
- ・サイクリスト、中高生が気軽に自転車で立ち寄り、園内を周遊できるようにすれば対象者が広がる。
- ・御崎、坂越といった観光スポットと海浜公園が結びつくと活性化する。

◇意見交換

○浜野委員

発表意見に賛同する。園内の移動が大変なので、サイクリングロードが整備できれば良い。

○赤澤部会長

ユニバーサルデザインとかインクルージョンなどと言われている中で、公園の端っこに遊具があって移動が大変という問題は全国的にある。赤穂海浜公園は広大な公園であるためアクセスは改善できたらと考える。休憩場所についてどう考えるか。

○濱田

現在の休憩スペースは昼食時に使われているが、そこから遠い新設遊具エリアには休憩場所がないので、特に夏場は屋根つきのところがあれば助かる。

○赤澤部会長

子どもがいるところと親がいるところをセットでつくるのは当然のことである。スケートパークなどニュースポーツの施設や管理釣り場に関する意見は聞いているか。

○濱田

子どもからは、スケートボードを禁止している公園が多く、ウェブで検索して行っているが、そこはにぎわっており、近くに施設ができればありがたいという意見があった。

○赤澤部会長

最近、公園の公募ではそういう意見がよく出る。

管理釣り場については、プールを冬に転用するところが増えている。冬ならではの面白さがあるので、いいのではないか。

○浜野委員

中高生が遊ぶ場がないが、バスケットボールのゴールポストなどの遊具も必要ではないか。

○濱田

球技については、城南緑地公園に行く方が多い。中学生から、簡単すぎない高度なアスレチックに挑戦できるものがあっていいという意見があった。

○赤澤部会長

淡路島公園にすごいアスレチックがあるが、イベントとして、施設がなくても楽しめるかくれんぼなど、ソフトの提案も面白い。

○梅本委員

たくさんの方の意見を取りまとめた発表を行って頂き感謝する。

○赤澤部会長

職場にいただけでは分からないことが多く、思い込みもあるので、新しい意見を常にいただきたい。音楽フェスなど、都市の中では難しくても、ここでは大騒ぎができる。非日常的でいい。音楽フェスについて想定しているのは、プロを呼ぶものなのか、一般人がやるものなのか。

○濱田

フジロックフェスティバルなどに行きたいが、そこまで行けないので、赤穂市にあったらいいという意見が出た。

○明石委員

駐車場は平日無料が一番いいが、100円や200円でも来れないのか。

○濱田

希望は無料だが、値下げでもうれしい。

周囲の人を誘うとき、他では駐車場料金がかからないためハードルが高くなる。

(5) 池本 慎也 (株式会社フォーチュンドリーマーズカーニバル) 赤穂市

- ・園内でテナントを運営している立場で提案する。
- ・海浜公園は、他地域からの来訪と、地元住民の散歩などでの活用という両面がある。
- ・観光など非日常的なにぎわいを創出できるエリアとして、青空広場、わくわくランド、赤穂広場、赤湖の東側は、1つの村に遊びに来るような感覚のところであると考える。
- ・森林浴を通じて喧騒から離れて癒やしを感じられる空間として、赤穂広場、四季の広場、県民の森、林内緑地、赤穂砂丘、塩性湿地、のじぎく広場は、環境を大きく変えず、公園そのものを楽しむところであると考える。
- ・自由広場は、現状ゴールデンウイークの臨時駐車場と市民の夕べのみに活用しているが、海に近いなど立地条件がよく、収益施設を設置すれば入場者が増える。

- ・ 食事をする場所がないため、公園外で昼食を取って午後に来園する方が多く、滞在時間は約3時間となっているので、滞在時間を長くする方法を考えている。
- ・ 林内緑地などに自然学校のようなものをつくることができるのではないかな。

◇意見交換

○山本委員

自由広場について、わくわくランドの利用者との関係から、具体的に考えている施設は何か。

○池本

バーベキュー施設のほか、テイクアウト型の販売施設により園内に食べるものがないという状況を解決したいと考えている。

わくわくランドについては、住宅など周辺環境を考慮し、音が出る遊具ではなく、親子で楽しめる遊具の設置を考えている。

○山本委員

公園そのものを楽しむエリアについてはどうか。

○池本

県民の森などの林にツリーハウスをつくり、木工教室などのレンタルスペースとして利用できるような施設にしたい。

のじぎく広場は、現状、未利用なので、絶滅危惧種で県花のノジギクをたくさん咲かせたい。インスタ映えする場所とすれば来訪者が増えるのではないかな。

○赤澤部会長

県民の森には立派な木があるので、そこに着目しているのか。

○池本

そうである。

現代の子どもは木を使った活動をするという経験がなく、木登りを禁止しているところもあるので、体験のチャンスを与えたい。収益施設と同時並行でやっていきたい。

○赤澤部会長

自然の中で少し危ない体験はできなくなってきた。

○梅本委員

シニアに対するプログラムはあるか。

○池本

落ち着いてコーヒーを飲めるようなスペースを考えている。

○岩崎委員

いろいろなアイデアの提案について感謝している。今後も意見を聞かせてほしい。

○赤澤部会長

ツリーハウスなどについては、事業としてちゃんとしたものをつくるのか。昔遊びができる人を活用するのか。

○池本

両面がある。技術を持っている高齢者と子どもが触れ合いながらツリーハウスをつくるイベントなども絡めて、完成したものを低料金でレンタルすることも考えられる。

○岩崎委員

ノジギクの花が咲く時期はいつか。

○池本

春から秋だが、一年中咲かせることもできる。県花であるノジギクをのじぎく広場で活用したい。

○赤澤部会長

地域は限られているが、咲いているところが増えている。

海浜性の野草なので、潮に負けず、メンテナンスも難しくない。

(6) 細川 富久明 (株式会社THREESQUAD) 赤穂市

- ・一市民として、スケートボードパークの設置について提案する。
- ・オリンピックで日本人が金メダルを獲得したことに触発され、スケボーをする子どもが爆発的に増えたが、練習場所が少ない。
- ・赤穂市では、みなとひろばにあるが、スケートボードを始めるという意味ではハードルが高い。小さな子どもが始められる環境を整備してほしい。
- ・スケボーパークを設置すれば、国内だけではなく、欧米からのインバウンドも期待できる。
- ・スケボーパークについては、それだけで完結するのは難しいので、キッチンカーやカヤックなどと連携した複合的なものにしてほしい。

◇意見交換

○浜野委員

高レベルのものと子どもが使えるものを設置したいということか。

○細川

高レベルな人はどんな状況でも遊べるので、スケボー普及のためには、始めたばかりの子どもをフォーカスしたほうがよい。

○浜野委員

コストはどれくらいか。

○細川

2年前の姫路市の例では、整備費が6,500万円、ランニングコストが鍵の開け閉

めのみで50万円となっている。

○明石委員

赤穂市内のスケボー競技人口はどれくらいか。

○細川

私の子どもの周囲でも30人いるので、総数としては500人以上いるのではない
か。スケボーをする人は各地に遠征するので、いろいろなところから来訪する。

○明石委員

近隣の設置状況はどうか。

○細川

相生市に私営のスケートパークがある。

日生町でも6,000万円ほどで設置する予定と聞いている。

○明石委員

相生市役所の近くか。

○細川

そうである。

○齊藤委員

みなとひろばでは、多目的広場のため、ほかのスポーツと交錯するので、専用
のものを要望する声は市に届いている。

○赤澤部会長

いろいろなレベルのスケボーパークがあるが、形態や来訪者についてどうイメ
ージしているのか。

○細川

大規模な施設は必要ではない。高度なテクニックを必要とするものではなく、
子どもが滑走する楽しさを感じられるものが一番である。

○赤澤部会長

神戸市のみなとのもり公園のように、スケボーができる環境を整備していると
ころもある。

○梅本委員

スケボーパークは賛成で、赤穂市らしさの演出もプランニングしてほしい。

近隣のスケボーパークとは違う個性的なものにしてほしい。

○赤澤部会長

イメージはあるか。

○細川

埋立地なので、コンクリートで施工できるかは分からない。

アメリカでは、街の1区画を使ったスケボーパークがあるが、そのようなもので
あれば日本のどこにもない。

○齊藤委員

相生市にある施設ではリピーターが多いのか。

○細川

子ども向けのスクールに来ている方が多い。

○齊藤委員

スクールのことも考えているのか。

○細川

そうである。

環境が整備されていれば、どのレベルの子どもにも体験してもらえる。

○齊藤委員

インストラクターはどの程度いるのか。

○細川

インストラクターという肩書の方は少ない。

教えるというよりも、一緒に遊んでいるという感覚の方が多いのではないか。

○赤澤部会長

プロによる指導だけではなく、神戸市のみなどのもり公園のインラインスケート教室のようにクラブ的な形も可能である。

○梅本委員

インストラクターの資格はあるのか。

○細川

日本スケートボード協会の講習を受ければ取得できる。

○赤澤部会長

資格取得者は有料で指導することができるのか。

○細川

そうだが、県や市で設置しているスケボーパークはほとんど無料である。その代わり管理者は不在である。

海浜公園に設置するのであれば、未経験の子どもも来るため、1人は配置する必要があるのではないか。

○赤澤部会長

必要な施設設備は何か。

○細川

雨が天敵なので、屋根はあったほうがよい。

(7) 奥道 一二美（播州赤穂の塩・ジオ研究会） 赤穂市

- ・市民として、塩サウナのある公園を提案する。
- ・観覧車跡地にセンスのある小屋を建て、少人数で利用できるサウナを開店し、体を整えたりリフレッシュしてもらいたい。

- ・少人数であれば、家族や女性の気楽な利用も考えられる。
- ・塩サウナの設置目的は、海浜公園の豊かな自然と運動施設の中に心身をリフレッシュする場を設け、公園利用者の運動の継続を図るということである。
- ・コンパクトサウナは、コロナなどのパンデミックにも対応が可能なものである。
- ・小型の建物であれば低コストで済み、建築材料として兵庫県産の木材やテントの使用も考えられる。
- ・小型サウナは、跡地の有効活用につながるほか、景観を遮ることもなく、環境のよい小さな村になる。
- ・塩サウナは、塩の国がある海浜公園ならではの特色を持つものになる。
- ・塩の国で塩づくりを体験し、マイソルトを塩サウナで使うことによって差別化が図られる。
- ・地産地塩(ちさんちしお)が塩の国の活性化方策になる。

◇意見交換

○岩崎委員

塩サウナとはどういうものか。

○奥道

サウナに置いてある塩を体に軽く塗ってサウナ浴をするもの。ここの売りはマイソルトを使うことである。

○岩崎委員

簡易なサウナに塩が置いてあるという形か。

○奥道

そうである。

サウナであれば水をあまり使わないし、海辺などで涼を取ることもできる。

3棟ぐらいでスタートし、利用が多ければ増やして展開できる。

○梅本委員

塩の国では1つの土鍋で40gの塩ができるが、それで何人分になるのか。

○奥道

分からない。子どもたちに塩の別な使い方・工夫方法を教えることもできる。

塩の国の塩は、少し混ぜる程度でもよい。

○浜野委員

サウナの場合、囲わなければならないし、水浴びの場所も必要だが、その辺はどうか。

○奥道

サウンディングで聞いてほしい。

かわいいグッズの販売も行えば若い人に受けるのではないか。

○赤澤部会長

塩サウナは、肉体と精神のリフレッシュにつながるし、ほかのサービスと組み合わせれば効果が上がるという提案である。

○奥道

観覧車跡地で、いろいろなものを使って心身を整えるようなことができないかということである。他の事例として観覧車のブースを転用するというのも聞いており、売られる前にサウナにしておけばと思った。

○赤澤部会長

テント型など簡易なものもあるので、やりやすいかもしれない。
御崎のサウナはどんなものか。

○奥道

温泉の浴場の一角にあるものである。無料でなく管理費程度は稼いでいただけるのではないか。

○浜野委員

観覧車跡地は狭い。自由広場で整備することも考えられる。

○赤澤部会長

場所や周囲の環境についてイメージはあるか。

○奥道

海の近くで、海に入れば夏も利用されるのではないか。

○池本

観覧車跡地は子どもも多いので、目立たないよう森林の中にバレル型の木製サウナを置く方法もある。

○奥道

3Dプリンターで製造したものを取り込む方法もあるが、森の中にあってもよいかという点はある。

○赤澤部会長

場所によって整備の仕方がある。

○梅本委員

サウナを目的に来る人が増えるのはいいことである。
海浜公園に来てサウナに入りたくなる仕掛けを考えてほしい。

(8) 江端 恭臣 (播州赤穂の塩・ジオ研究会) 赤穂市

- ・ブラタモリに来てもらえるよう赤穂市全体として取り組んでいる。
- ・先人が赤穂の地形などを有効に活用した塩田をつくったことによって、日本一の塩の産地になっている。
- ・日本第一の塩を産したまち播州赤穂という日本遺産を生かすため、10のモデル

コースの設定を考えており、その1つを提案する。

- ・入り浜式、流下式、揚げ浜式の塩田がそろっている海浜公園を活用し、塩づくりを体験してもらおうガイドつき観光コースを設定したい。
- ・真塩と差塩の違いを知ってもらおうのも面白い。
- ・ほかにはない地域の宝物を利用して海浜公園を楽しんでもらうほか、他の観光と結びつけて赤穂市での滞在時間を延ばし、地域の活性化につなげたい。

◇意見交換

○明石委員

赤穂市での滞在時間が短いので、体験型観光は重要な課題である。
赤穂市としては塩田の改修をお願いしたい。

○江端

塩田は干拓した場所で海水面に近い。塩田の表面が固まると毛細管現象はあまり起こらない。塩田に降りて、砂を引きならしたり、かき集める作業をすることで、地形地質と気候を利用して塩田を作った昔の人のすごさが分かる。

海外では、大規模な塩田はあるが、日本のような方法で塩をつくる事例はないと聞いている。うまくPRすればインバウンド誘致の観光資源になるのではないかな。

○赤澤部会長

海洋科学館に対する意見はあるか。

○江端

修学旅行などに対応していることは知っているが、赤穂市の日本遺産に至った経緯について一層分かりやすく説明してほしい。

○山本委員

これからの海洋科学館についてアイデアはあるか。

○江端

想定していない。ガイドは、観光協会や海浜公園塩の国で既に行われている。我々は塩とジオを組み合わせたモデルコースの企画に取り組んでいるが、観光商品化についてはDMOでよい商品をつくってほしい。

○赤穂DMO 多田

ガイドを務めるのは塩・ジオ研究会のメンバーと想定しているのか。

○江端

想定していない。ガイドは、その道のプロなど別の方が行ってほしい。

我々は塩とジオを組み合わせた観光振興に取り組んでいるので、DMOでよい商品をつくってほしい。

○赤穂DMO 多田

コースは考えたが、ガイド養成は別途行う必要があるということか。

○江端

そうである。

○赤澤部会長

そういった連携体制の構築が必要になる。

○岩崎委員

唐船山についてもっと注目してほしい。

○江端

兵庫県で一番低い山として売りたい。眺望もいいので、周遊してほしい。

(9) 横山 正 (千種川圏域清流づくり委員会) 上郡町

- ・当委員会は、子どもの体験活動や水温調査などを行っている。
- ・赤穂市の地形として三角州が広がり、遠浅の海や干潟があるが、干潟は狭くなっている。
- ・遠浅の海と湿地帯は、生物多様性に富んでおり、千種川の生き物のライフサイクルの中で重要なエリアだが、縮小している。
- ・海の砂の堆積状況も悪化し、アマモの生育が悪くなり、その再生に取り組んでいる人も存在する。
- ・本物の自然環境を取り戻すことが最優先事項で、これを海洋科学館の目的として、イベントや活動を展開していけないか。
- ・浜名湖のように池を外洋に接続させれば、潮の満ち引きが生まれ、本来の生物などが戻ってくる。それをどう利用するかは将来的な話になる。
- ・海岸が見渡せる接続の仕方、海とつながっている水域の造成が必須の条件である。

◇意見交換

○岩崎委員

意見に賛同である。干潟など、ここにしかないものを変える必要はない。そういった視点で地域と連携してやっていければ良い。

○赤澤部会長

2つの池の水はどうなっているのか。

○事務局

樋門を通じて自然に出入りしている。

○横山

池の中を水が循環するようになっていないのではないか。

○事務局

水が出入りしており循環はしている。

○赤澤部会長

水が出入りはしているがよどむところが生じる場合がある。

提案は、土台ができることによって学習なども展開できるというイメージか。

○横山

多様な学びのほか、レジャーも可能とするため、水と生き物が出入りでき、外洋に開けていることがポイントである。公園から見た景観も重要なポイントである。自然な状態が一番の売りになる。

○浜野委員

海に堆積物がたまっているなど、大きく変化してきているところがある。

○横山

絞られた形のところで停滞してしまう。それが循環に関係してくる。

○赤澤部会長

水、栄養、土砂の全てがちゃんと流れなければいけない。

公園と海のつながりについて、今の環境でできることはあるか。

○横山

海岸の生態系、環境と一緒にではないが、出入りするエリアは近い状況にある。そのほか、砂の流れの状況を見て構造を考えるとよいが、湾の奥の方と中の方では環境が違うので、多様な形になっていく。環境の変化について解説する人材も必要になる。参考になるものとして、大浦湾で展開されている竹野スノーケルセンターの取組がある。

(10) 田淵 和彦 赤穂市

- ・樹木の整備について、防犯面や景観面から樹木伐採などの対策は必要である。園内がよく見えるように工夫したほうがよい。
- ・太陽の丘～出合橋～風の門にかけての人通りが少ない。海洋科学館を海と塩歴史館とし、塩の国にふさわしい展示内容に変え、西側ゾーンに人流をつくった上で、青空広場と四季の広場を再整備してはどうか。
- ・高知県のいち動物公園や、おかやまフォレストパークドイツの森を参考に、飲食施設や花畑の整備、野外ステージの活用など、入園者を増やす工夫を考えてはどうだろうか。
- ・海浜公園はマラソンの開催やジョギングやウォーキング、テニス等の目的で多くの方が利用しており形を変えた運動公園とも言える。そのため低未利用ゾーンの自由広場の利用計画として、スケートボードなどオリンピック種目のスポーツ施設の建設、誘致を考えてはどうか。スポーツ推進都市を目指す赤穂市で目玉施設を設置することも土地活用の1つである。
- ・高知県立池公園の高知オーガニックマーケットのように、赤穂市や近隣市町の協力を得て土曜市を開催し、公園の活性化と地域づくりを図るとともに、探検

ウォーキング大会などのイベントを計画し、地域を盛り上げてはどうか。

- ・ 駐車場料金について、無料化か引下げを考えてほしい。平日は無料とし、園内でお金を使ってもらふ工夫をしてはどうか。
- ・ ロードバイクも入れるように駐輪場の整備が必要。サイクリストは情報を発信するので、入園できるようにしてほしい。

◇意見交換

○田淵

ここ数年でよくなっているが、気がついたことを述べた。段差があり、車椅子の方は使いにくい。地域振興のために海浜公園をいかに活用するかということである。

○奥道

テニスコート使用料の100円、200円と比較し、駐車場料金の500円はいかがか。健康管理として運動するために来られる高齢者などもある。テニスコート使用料ぐらいに下げただけでないだろうか。

○梅本委員

実証実験の数字を言ってはどうか。

○赤澤部会長

全部無料が一番いいが、料金設定はなかなか難しい。無料化で平日の利用者数が2.6倍になったが、土日も入れたトータルで年間720万円の減収となる。有料施設を使う方と無料のところを楽しむ方のバランスを考えると、新しい収入源を考えることも必要である。

○田淵

720万円の減収になるのなら、ほかで1,000万円のもうけを出す方法を考えることが重要である。地域振興のために行政も含めて海浜公園全体の活用方策を考える必要がある。これは海浜公園だけの問題ではないと考える。

○浜野委員

風の門の駐車場がほとんど使われていないのは遠いからである。

自転車を入れるよう駐輪場の整備をしてほしい。

○田淵

駐車場の設定も考え直すべきである。自転車が入って対人事故が起きた場合にどうするかという問題もある。園内の人の動かし方について工夫が必要である。

大きな公園なので子どもを連れていても遠くまで行けると言うことも考えないといけない。

○浜野委員

自転車については、既存の道を使うのではなく、サイクリングロードの整備が必要である。

○田淵

そのようになればよいと考える。小さな段差があり、車椅子利用者などは通りにくいので、見直してほしい。

○赤澤部会長

全面的に平坦では自然感がなくなるので、平らなところと、少しごつごつしたところとのバランスを考えながらということになると考える。

○田淵

実際に現場を見るとそういったことではないと考える。

○赤澤部会長

バリアフリー法という法律の中で、園内に一周はバリアフリーの道を設置し休む場所を設置することが求められているので、このような大きな公園ではそういったことも十分検討する必要がある。

(11) 東條 正輝（赤穂しおまつり実行委員会） 赤穂市

- ・日本一の赤穂の塩を広めるため、昨年、坂越防災交流館と民俗資料館でしおまつりを開催し、合わせて約1,000名の参加があった。
- ・しおまつりは、先祖が築いた塩田からの恩恵を忘れないでほしいとの願いから開催している。
- ・海浜公園は、平日の利用者が非常に少ない。閑散としている。
- ・園内の広大な空きスペースに飲食店や土産物店などを設置して道の駅のようにすれば、地域の人や観光客も利用するのではないか。

○平田 孝光（赤穂市シルバー人材センター） 赤穂市

- ・赤穂海浜公園で除草作業を行っており、利用状況を把握している。子連れの家族からは暑い、寒い、しんどいといった声しか聞こえない。
二十歳前後の方がおすすめの場所を聞いてくるが良い場所を案内できない。
- ・園内の環境が景観的にも防犯的にもよくなってきていることを誇りに思うが、より良い公園とするために、特に子どもや若者の声を聞きたい。

◇意見交換

○岩崎委員

しおまつりはどのようなイベントか。

○東條

坂越防災交流館では、塩が入った袋を47個積むゲームなどを行った。民俗資料館では、塩の歴史に係る講演も行った。今後、海浜公園で実施する場合はもう少し拡大したい。

平田さんには子どもを楽しませるノウハウをもっているため是非それを発揮して

ほしい。

個人としては東側に飲食店や土産物店があればよいと考える。

○赤澤部会長

今後のしおまつり開催についてどのようにイメージしているか。

○平田

莫大な資金を投じれば遊ぶ方法は幾らでもあるが、少ない資金で参加者に体験してもらいたい。

○赤澤部会長

日常的な面白さを提供したいということか。

○平田

そうである。

○赤澤部会長

以上で終了するが、今回の意見を部会の議論に反映するとともに、今後も引き続き、海浜公園をよくするために意見を聞いていく。

以上